

# B-73 農村婦人作業衣の変遷について（第3報） —かぶりもの(1)—

農林省農技研 日浅治枝子

1. 農村婦人作業衣の一部を占めるかぶりもの類は、従来、農民が野外労働時に際してうける各種の自然条件、およびその他の危険から身体を保護するためにも、極めて重要なものであったが、近年、農業の発達により、さらにその重要性を高めている。今後、ますます農業の発展が予想されるが、それに対応しより合目的な機能性、ならびに防護性を備えたかぶりものの開発が必要である。そのためにも全国各地におけるかぶりもの類の実状を明らかにしたいと考え、この研究に着手した。

2. 昭和27年以降現在にいたる間、全国各地約100カ所において、かぶりものについてその形態、構造、材質、地域差、変遷過程など、実態調査を行なったものである。

3. 現在、全国各地において用いるかぶりもの類は、大別して布製品と布製品以外に分けられるが、今回は布製品について報告する。

東北地方一帯では、地域的に独特のかぶりものが多く、ハンコタナ、ながてぬぐい、ふなぼうし、ふろしきなどがみられる。関東地方では、てぬぐい2本を用いて特殊なかぶりものを形成している。関東以西では、てぬぐい1本を用いる地域と、洋風の帽子形態のかぶりものを用いる地域がある。これらの地方差をもたらす一般的な要因として考えられることは第1に土地、気象などの自然的条件、第2に風俗、習慣などの社会的条件、第3に生産力の発展などの経済的条件など、これら諸条件の相違によるものであろう。